
10月4日更新 愛知県陶磁美術館の学芸員の方が資料調査のため来館しました。

調査研究課の尾崎です。

9月30日(金曜日)に愛知県陶磁美術館の学芸員の方が来年度開催予定の企画展の展示資料選定のため来館しました。今回調査の対象になったのは、清州城下町遺跡(清須市)、名古屋城三の丸遺跡(名古屋市)、松河戸遺跡(春日井市)出土の瓦、志賀公園遺跡(名古屋市)出土の須恵器です。今回は来年度、再来年度に愛知県陶磁美術館で行う企画展の展示資料選定のために来館されました。当センターの資料を用いてどんな展示がされるのか楽しみです。

当センターでは今後も資料調査、資料の貸出を受け付けています。是非とも御活用ください。

* 清州城下町遺跡(清須市): 清須城跡とその城下町が遺跡として登録されている。発掘調査によって戦国時代の城下町期遺構や、江戸時代尾張三宿の一つとしてとして有名な「清須宿」時代の遺構が発見されている。

* 名古屋城三の丸遺跡(名古屋市): 名古屋城三の丸地区に所在する弥生時代から江戸時代にかけての複合遺跡。墳丘が削平された古墳や弥生時代の竪穴住居、近世以前の那古野城の堀、江戸時代の武家屋敷跡などが発見されている。

* 松河戸遺跡(春日井市): 縄文時代から江戸時代にかけての複合遺跡。縄文時代前期の集石遺構や集石炉、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての環濠集落、古墳時代の土器焼成坑が発見されている。



資料調査の様子

10月4日更新 愛知県立天白高等学校で出前授業を行いました。

調査研究課の尾崎です。

9月26日(月曜日)、27日(火曜日)に愛知県立天白高等学校で出前授業を行いました。授業は第2学年の文系生徒6クラス、240名を対象に行いました。

はじめに、考古学の概要と遺跡、遺物について説明しました。職員の顔をしっかりと見て話を聞いていた姿が印象的でした。今回は愛知県教育委員会のホームページに掲載されている[愛知県文化財マップ](#)(「[マップあいち](#)」の中にあります)から[天白高校周辺の遺跡を取り上げました](#)。普段の歴史の授業では地元の遺跡について触れる機会は少ないと思いますが、近隣に多くの遺跡が存在することを知ってもらえたかと思います。

次に遺跡から出土した土器に実際に触れ、その特徴や用途などを考えるアクティブラーニングを行いました。今回は[朝日遺跡\(清須市\)出土の円窓付土器\(まるまどつきどき\)](#)、[赤彩土器\(せきさいどき\)](#)、それから天白高校の近くで発掘が行われた[高針原一号窯](#)から出土した須恵器を用いました。本物に触れた時の生徒のみなさんの表情が印象的でした。

生徒のみなさんの感想を抜粋して以下にまとめました。

・実際に弥生時代の土器に触れることができよかった。授業では出てこなかった土器を知ることができた。また一つ知識が増えて日本史の授業を受ける楽しみができた。考古学について少し興味がわいたので、大学で学んでみようかなと思った。まだなぞが多い古代の暮らしについて自分でも考えてみようと思った。

・初めて土器に触れて、意外と軽いことや質感が滑らかなことなど分かって楽しかったです。土器の用途をみんなで話しあって考えるとき、全然わからなかったけど、いろいろな考えが聞けて楽しかったです。あまり土器などに興味がなかったのですが、用途を想像したりして、少しだけ面白いなと思いました。

生徒のみなさんの感想を参考にしてより考古学に興味を持ってもらえるような授業を行いたいと思います。

愛知県埋蔵文化財調査センターでは出前授業を今後も行っていきます！御活用よろしくお願いたします。

* 円窓付土器(まるまどつきどき)：弥生時代中期後葉にみられる楕円形の孔をあけられた土器。尾張地域に分布する土器であるが、その大半は朝日遺跡から出土している。孔があけられていることや居住域からあまり出土しないことなどから、儀礼的な性格を持つ土器であると考えられている。

* 赤彩土器(せきさいどき)：ベンガラ(酸化鉄を主原料とする顔料)で彩色された土器で、弥生時代後期から古墳時代初期の尾張地方を代表する土器の一つ。パレス・スタイル土器とも呼ばれている。墓域、井戸や溝などの水辺などで出土することから葬送の場や水辺での祭祀といった儀礼的な空間に関わる土器だと考えられている。

* 高針原一号窯：名古屋市天白区に所在する須恵器窯。7世紀後半から8世紀前半に操業された。器種としては、坏類、高坏、鉢、甕、瓶類が製品として生産されている。「黒見田五十戸」(くろみたのさと)と刻書された須恵器も出土している。



出前授業の様子

9月23日更新 弥富市立十四山中学校で文化講座を開催しました。

調査研究課の尾崎です。

9月14日(水曜日)に弥富市立十四山中学校で文化講座を開催しました。この文化講座は十四山中学校の文化祭の一環として行いました。講座名は「考古学教室」です。1年生から3年生まで18名の生徒のみなさんが参加しました。

講座は2部に分けて行いました。**第1部では東海地方を代表する弥生時代の集落である朝日遺跡について学びました。**はじめに、職員から朝日遺跡の概要を学びました。生徒のみなさんが真剣に職員の話聞いていた姿が印象的でした。初めて学ぶ朝日遺跡について少しでも関心を持っていただけたかなと思います。

次に朝日遺跡から出土した**円窓付土器(まるまどつきどき)**、**赤彩土器(せきさいどき)**に触れて特徴や使い方を考えるアクティブラーニングを行いました。はじめのうちは土器に触れることが初めてであるため、持つことに精一杯だったようですが、時間が経ち、慣れてくると生徒どうしで意見を言い合ったりしている姿も見受けられました。職員が「この土器の特徴は？」や「どう使ったと思いますか？」と質問するといくつも意見が返ってきて、熱心に講座を受けていることに感心しました。

第2部では火起こし体験を行いました。火起こしに熱中していた姿が大変印象的でした。みなさん熱心に火を起こそうとするので、教室中が焦げた匂いで一杯になっていました。生徒のみなさんがとびきりの笑顔を見せてくれたことが本当にうれしかったです。

今回このような講座を実施させていただいた十四山中学校のみなさんありがとうございました。講座を通して少しでも考古学に興味を持っていただけたら幸いです。





文化講座の様子

9月12日更新 千葉県八千代市教育委員会の方が資料調査のため来館されました。

調査研究課の尾崎です。

9月6日(火曜日)に千葉県八千代市教育委員会の方が資料調査のため来館されました。今回調査の対象となったのは、朝日遺跡(清須市)、一色青海遺跡(稲沢市)から出土した弥生土器です。今回の調査では主に甕、壺、高坏(たかつき)を対象とされていました。今後は今回の資料調査の成果もふまえて論文にまとめられるそうです。どのような成果があったのか論文が出るのが楽しみです。

当センターでは今後も資料調査を受け付けていきます。御活用よろしくお願いいたします。

* 朝日遺跡(清須市):東西約1.4km、南北約0.8km、推定面積80万平方メートルに及ぶ東海地方最大規模の弥生集落。集落は弥生時代前期から古墳時代初頭まで営まれた。集落を囲む環濠(かんごう)や争乱の証拠となる逆茂木(さかもぎ)や乱杭、お墓である方形周溝墓など様々な遺構が発見されている。

* 一色青海遺跡(稲沢市):弥生時代中期末に営まれた遺跡。遺構としては、竪穴住居、土坑、方形周溝墓などが検出されている。出土した土器の詳細な検討により、中期末という短期間のうちに集落が変容していく様相が明らかとなった。



資料調査の様子

8月25日更新 東浦町郷土資料館(うのはな館)の学芸員の方が資料調査のため来館されました。

調査研究課の尾崎です。

8月23日(火曜日)に東浦町郷土資料館(うのはな館)の学芸員の方が資料調査のため来館されました。今回調査の対象となったのは八巻古窯群(はちまきこようぐん)(東浦町)から出土した陶器です。

対象となった陶器の中で最も多かったのは山茶碗です。この窯跡から出土した山茶碗の底部には木葉状の線刻が見られるものがあります。陶器を作った人たちがどうして木葉を線刻したのかはまだ分かっていませんが、線刻された理由を推測してみると面白いですね。

これらの遺物は、東浦町郷土資料館(うのはな館)で秋に開催される企画展「八巻古窯と常滑焼の名品展」に展示されます。開催期間は**10月22日(土曜日)から11月27日(日曜日)**です。ぜひ東浦町郷土資料館(うのはな館)に足をお運びください！

* 八巻古窯群(はちまきこようぐん): 平安時代末から鎌倉時代に操業したと推定される窯跡群。1961年に第一次調査が行われ、窯本体3基が確認されている。2011年の調査では灰原が検出された。山茶碗や壺・甕類などの陶器が出土している。

* 灰原(はいばら): 焼成中に形が歪んでしまったもの、割れてしまったものなどを捨てる場所。



上段: 遺物実見の様子

下段:八巻古窯群(はちまきこようぐん)出土木葉状線刻を持つ山茶碗の底部

8月19日更新 岩手大学の佐藤由紀男先生が資料調査のため来館されました。

調査研究課の尾崎です。

8月16日(火曜日)に岩手大学の佐藤由紀男先生が資料調査のため来館されました。実見された資料は、麻生田大橋遺跡(あそうだおおばしいせき)(豊川市)から出土した磨製石斧(ませいせきふ)65点です。先生は石斧を一つずつはかりの上に乗せたり、はかりの底に釣り糸で石斧を吊るし、水の入った容器に入れることによって、石斧一点一点の正確な重さをはかっておられました。先生はこのような作業から得た結果を総合して**石材の原産地を推定し、縄文から弥生時代にかけての全国の石材の流通状況を研究しています**。今回の実見成果も含め今後論文にまとめられるそうです。

愛知県埋蔵文化財調査センターでは今後も資料調査を受け付けております。御希望の方は御連絡よろしく願いいたします。

* 麻生田大橋遺跡(あそうだおおばしいせき):豊川市に所在する縄文時代晩期後葉、古墳時代、中・近世にかけての複合遺跡。縄文時代晩期後葉から弥生時代初頭に関しては、100例を超える土器棺墓(どきかんぼ)を検出し、縄文時代から弥生時代への推移を究明するのに重要な資料を提供する遺跡として注目されている。

* 磨製石斧(ませいせきふ):縄文から弥生時代にかけて作られ、主に木の伐採に用いられた石斧。原石の荒割りからはじめて、しだいに細かく加工し、磨いて仕上げる。



上段(左): 資料実見の様子

上段(右): はかりの上に乗せて重さを計測しています。

下段(左): はかりの底に釣り糸で石斧を吊るし、水の入った容器に入れて重さを計測しています。

下段(右): 磨製石斧(ませいせきふ)

8月18日更新 高校生のための考古学サマーセミナーを開催しました。

調査研究課の尾崎です。

8月9日(火曜日)に高校生のための考古学サマーセミナーを開催しました。今年度は県内各地の高校生18名が参加してくださいました。

今年度実施した講座は以下のとおりです。

講座1-1: 埋蔵文化財とは？～我々はなぜ埋蔵文化財を調査するのか～

講座1-2: 発掘調査のてびき～発掘調査報告書完成までの流れ～

講座2: 調査センターの施設見学

講座3: 出土遺物に触れる その1～土器から歴史を考える～

講座4: 出土遺物に触れる その2～拓本講座～

講座1-1、1-2では、埋蔵文化財について、考古学の概要、発掘調査の手順、目的などの基本的な知識を説明しました。職員の話聞きながら相槌を打ったり、メモを取ったりしている姿が印象的でした。

講座2では、遺物が保管されている収蔵庫、科学分析室、整理作業を行う第1次遺物整理室、県内各地の遺跡から出土した遺物を展示している資料管理閲覧室などを見学しました。収蔵庫や科学分析室、第1次遺物整理室は普段は一般公開していない場所なので、職員の説明を聞きながら目を輝かせていたのが見て取れました。

講座3では、出土した土器を手に取り観察して、土器の特徴、用途、使われた時代を考えるアクティブラーニングを行いました。講座では縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器を用いました。土器を最初に手に取った時はみなさん緊張していて顔がこわばっていましたが、講座を進める中で徐々に緊張がほぐれていき、はるか昔に作られ、使われたということを実感している様子でした。土器を手に取り、笑顔になっていたのが印象的でした。

講座4では、清須市にある弥生時代の環濠集落、朝日遺跡から出土した土器の破片の模様を拓本で写しとっていききました。当センターではよくこの拓本講座を実施するのですが、どの年齢の方を対象にしても楽しんでいただけます。今回も何度も拓本をとる生徒さんがたくさんいました。2000年前

の弥生人の造形美を体感していただけたかと思います。できた拓本はラミネートフィルムにパウチして、しおりとして記念に持ち帰っていただきました。

今回は私自身初めてのサマーセミナーでいろいろと戸惑うこともあったのですが、高校生のみなさんに考古学の楽しさ、面白さが少しでも伝わったかなと思っています。来年度もサマーセミナーは実施しますので、御参加よろしく願いいたします。



サマーセミナーの様子

8月10日更新 愛知県立岡崎高等学校の生徒さんたちが施設見学のため来館されました。

調査研究課の尾崎です。

7月28日(木曜日)に愛知県立岡崎高等学校の生徒さんたち13名が施設見学のため来館されました。今回の施設見学では、**考古学の概要を学ぶ講義、施設見学、拓本講座**、さらに希望者のみの**常設展示の解説**を行いました。

考古学の概要を学ぶ講義では、職員から考古学と埋蔵文化財の発掘調査について講義をとおして学びました。職員の話にしっかりと耳を傾けながらメモを取っていた姿が印象的でした。

施設見学では、遺物を保管する収蔵庫、科学分析室、第一次整理室などを見学しました。各場所を回っていく中で職員の解説することをメモしたり、写真を撮ったりするなど興味を持って見学しており、私自身うれしく思いました。

拓本講座では朝日遺跡から出土した弥生土器の模様を写しとりました。今回のスケジュールの中で、拓本講座が一番生徒さんたちの目が輝いていました。2000年前の土器が自分の手の中にあることをみなさん実感しておられたと思います。土器を手にとって拓本をとりながら「今回この施設を選んでよかった」などの声も聞かれ、拓本講座をやってよかったと思いました。

最後の**常設展示案内**は希望者のみの参加を予定していましたが、ほとんどの生徒さんが参加してくださいました。縄文時代から古代、中世にわたる土器の時代ごとの形の移り変わりやそれぞれの特徴についてみなさんで意見を交わし合いながら見学していたのが印象的でした。

今回の見学を通じて一人でも多く考古学に興味を持ってもらえたら幸いです。あと何年後かにも働く仲間ができればいいなと思っております。

見学に際して協力して下さった愛知県埋蔵文化財センターの職員、作業員のみなさん、どうもありがとうございました。

当センターでは今後も個人・団体の施設見学を受け付けていきます。御希望がありましたら下記に御連絡ください。御活用よろしくお願いたします。

愛知県埋蔵文化財調査センター

TEL:0567-67-4164

FAX:0567-65-1841

MAIL: maizoubunkazai@pref.aichi.lg.jp

担当: 調査研究課 尾崎



施設見学の様子